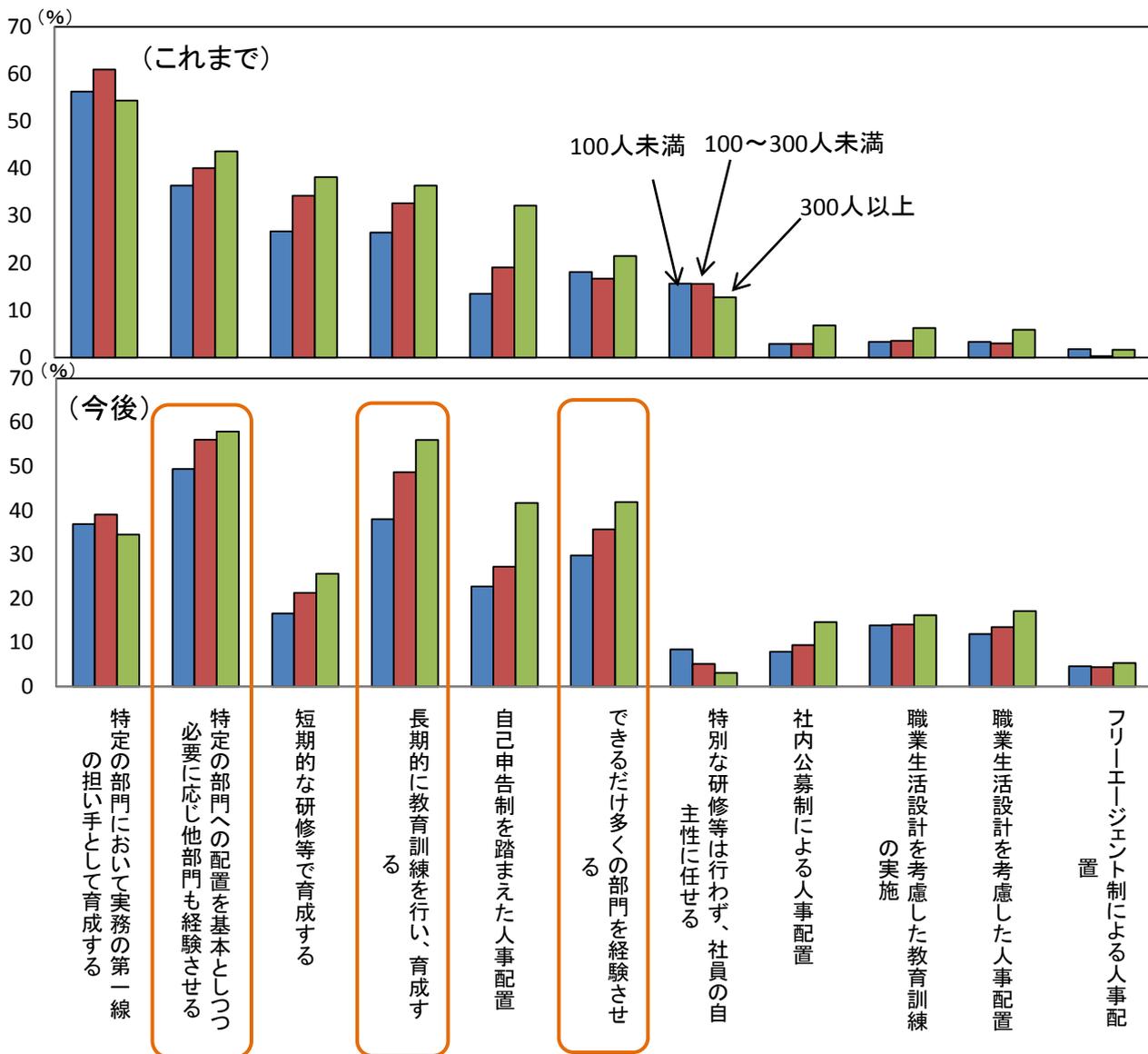


若手人材の育成において重視すること



資料出所 (独)労働政策研究・研修機構「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」(2011年)

(求められる組織の一体性と人事機能強化に向けた動き)

- 若手人材の育成は、多くの企業で喫緊の課題になっている。近年における人事配置の一般的な姿をみると、若手は実務の第一線に配置され、その分野の担い手として訓練するという手法が多用されてきた。こうした方法が広くみられたのは、バブル崩壊後、コスト抑制や即戦力志向が広がったことと強い関連があり、本社の人事担当部門も、それぞれの業務分野の実務者の意向にそって、採用、配置を行う傾向がみられた。
- しかし、こうした一連の動きは見直されつつある。今後、企業が重視することをみると、「特定の部門への配置を基本としつつ必要に応じて他部門を経験させる」、「長期的に教育訓練を行い育成する」、「できるだけ多くの部門を経験させる」などの回答が多くなっており、その割合は大企業ほど高い。